千枚田を探ろう

町民の主張の会で、連谷小学校３、４年生５名が１月２２日、「千枚田を探ろう」をテーマに発表しました。

発表者　３年 小山拓磨・大橋萌生・藤田真衣　４年 松下奈央・原田聖子の皆さん

・田越し、代かき

冬の間、かたくなっていた土をびっちゅうで起こしたが、まだかたまっている土を、田んぼに水を入れて、みんなで歩きながら、かたまりをくだいていきました。時間をかけたので、きれいな田んぼができ上がりました。

・田植え

去年は、少し曲がって苗を植えてしまったので、今年は曲がらないように、秘密兵器を使いました。それは、道糸です。ぴんと糸をはって、同じ幅に動かして行きます。私たちは糸にはってある印のところに植えれば、まっすぐに植えることができます。

３、４年生の田んぼはハート型なので「ラブたん」と名前をつけました。

・農道が完成するまでの作業の様子

昔の様子を聞いてみました。「今から３年前までは、道が通じていなかったので、背負子を使って農具を自分の田んぼまで、運んだよ。」田植えをするまでに、約１ヶ月ぐらい田んぼに入り浸っていたよ。」と聞いて驚きました。

・昔と今の田んぼ

昔は地主と小作人という制度があって、とれたお米の５分の１、６分の１を借地料としておさめていたそうです。今は、逆に都会の人たちにあいている田んぼをたがやしてもらっているそうです。

・お米の取れる量と消毒

「昔は消毒をするのがふつうだったけど、最近では、環境を守ったり、体によくないということで、最初に消毒をして、あとは、どうしても虫が発生してこまるときに消毒をするくらいだ」ということでした。消毒の話を聞いて、安心したけど、本当に大丈夫なのか、千枚田と学校前の川で水性生物調査をしました。サワガニやトビゲラがたくさんいて、きれいな水だということがわかってみんな安心しました。

・減反施策と補助金

もう 30 年も前に、国から「日本は米があまったので、米つくりをひかえるように」と指示が出たそうです。それが減反施策です。私は、千枚田の田んぼがすくなくなっていくのはさびしい感じがしました。

・やめていってしまう田んぼは、農道からはなれたところか

やめていく田んぼは、農道からはなれたり、山にくっついた方で、どうしても日当たりが悪くて、10 アールあたり 350kg から 480kg もの差があったそうです。

・沢の幅、段差調査

機械をどのようにして入れるのか、千枚田の田んぼと田んぼの間の段差を測りました。その結果、１ｍぐらいだということがわかりました。また、大きな沢は４ｍくらいありました。段差には、かんたんなはしごをかけて、耕耘機を入れるそうです。

・鳳来町は千枚田を守ろうとしているか

ぼくには、不安なことがあります。それは千枚田を守っていけるかということです。おじさんは、少しの補助金がもらえるといっていたので、やはり鳳来町は千枚田を守っていきたいとかんがえていると思いました。千枚田を守っていくのには、いろいろなアイディアが大切だなあと思いました。

・　案山子作り

私たちは、カラスやスズメやイノシシからお米を守ろうと、案山子作りをしました。お父さんやお母さんも参加してくれて、一人一体の案山子を作りました。２学期になって案山子を田んぼに立てました。自分の案山子の力がどれほどか、楽しみでした。

四谷の
千枚田だより

第 18 号

霜波う千枚田の畦に幼かる
葉裏の白き蓬が光る
四谷　小山志ず子

全国棚田(千枚田)連絡協議会

愛・地球博

「速報」
四谷千枚田が「美の里百選」に認定

東海農政局は十四日、東海3県で美しい農村景観や伝統文化の残る地区を認定する「東海美の里百選」に四谷千枚田を選んだ、と発表がありました。

百選に認定された地区の概要は、東海農政局のホームページ上で公表するほか、3月までに冊子を作り広く紹介されます。

中島先生千枚田へ

二月十日、棚田学会副会長の中島先生が千枚田を訪れました。

中島先生(早稲田大学名誉教授)は全国の棚田百選百三十四ヶ所を踏査、「百選の棚田を歩く」などの著書があります。

平成十一年四月に東京で開かれた棚田講座 初級編において「愛知県鳳来町四谷の棚田」と題して連続講座を開きました。また、昨年のサミット分科会では「棚田サミットの10年～サミットの軌跡と展望～」のコーディネーターを勤めるなど、棚田関係で活躍している立派な先生です。

支援グループの活動

昨年春、稲作プロジェクトチームのメンバーが水車小屋付近の杉木立、竹林の伐採を行いました。その、片づけ作業を一月三十日実施しました。

このように、外部の方達が率先して棚田景観、保全に協力して頂くことは本当に有難い事です。

NHK歌壇に入選

千枚田の俄百姓、小山柳二さんの短歌がNHK歌壇に投句し、入選の栄誉を得ました。(二月号掲載)

つかの間の
晴れ間をたのみ
猪に
ふみしだかれし
稲穂を洗う

柳二さんは、昨年、丹誠込めて作った稲をイノシシに何回も何回も荒らされ傍目にも気の毒にみえました。

普通なら、あれだけ踏み倒されたり、ヌタをうたれたら頭にきて、捨ててしまうか、焼いてしまうのが当たり前であるが、そこは、さすがに芸術家(絵画・版画・陶芸)、ちゃんと短歌に詠んでしまった。

大デコと木ん馬

「九六鍬さ」(千枚田だより第9号)の話題提供者原田二三男さんが、山崩れの田んぼ復興に大きな石を積み上げた道具「大でこ」と「木ん馬」を作ってくれると申し出がありました。

サミットには「大でこ」、木ん馬」、「九六鍬」、「鋤簾」などを使って大きな石積みの田んぼを復興させたんだと現場で説明すれば、サミットに訪れた人達も興味を持たれ「なるほど、昔の人は凄いことをして田んぼを作ったもんだ」と感心することと思います。

サミットまで あと194日

みんなでわくわく 千枚田サミット

連谷小学校では二月十九日(土)、「みんなでわくわく千枚田サミット」を開きました。

一時十五分から約一時間「私の千枚田への思いと四谷千枚田の保存活動」と題して小山舜二が講演を、その後、「お助け隊」の指導で児童、PTA、老人会、一般の方達大勢が、サミット花一杯運動の一環とした、プランター枠作りに取り組みました。(中日新聞掲載)

発行 平成十七年二月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二